



保護者のみなさまへ

感染症から生まれる差別・偏見について

考える学習をおこないました

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常の生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いています。

今までとは違う生活様式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきました。

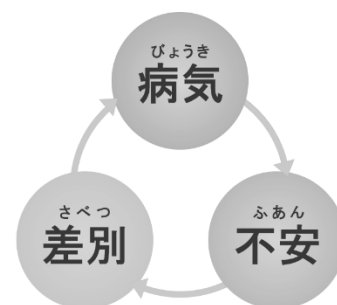
そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの“感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える学習を実施しました。



3つの“感染症”とは？

- ① “病気” そのものの感染症
- ② “不安” という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見” という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check

負のスパイラルを断ち切るためにできること

① ウイルスの感染をひろげないために…

まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなうこと

② 不安にふりまわされないために…

情報源のはっきりしないうわさはしない・広げないこと

③ 差別や偏見をひろげないために…

体調不良を言い出しにくい空気をつくらないこと

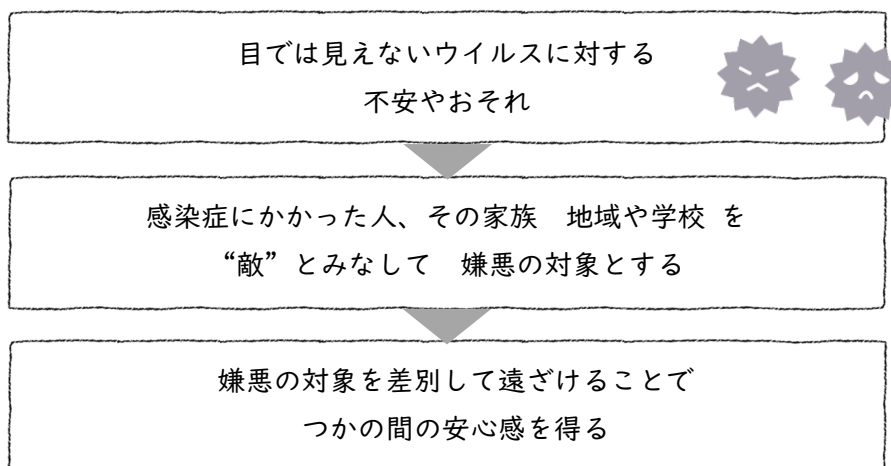




感染症から差別や偏見が生まれる理由



人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。
感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。



新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。
たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えましょう。

子どもたちの感想

- 自分でできる感染症対策はこれからもきちんと続けていきたい。もし周りの友達でコロナになった子がいたら、あたたかく迎えてあげたいし、安心できるような声をかけたい。
- 感染症は「正しく恐れる」ことが大切だと思った。うわさや不確かな情報に振り回されないようにしたい。
- コロナは、感染症だけでなく、不安や差別も広げるから本当にこわいと思った。自分はどの感染症も広げないようにしたい。



ご家庭でもご協力をお願いします

日頃から、前日に体調不良で休んだ子がいると、「大丈夫だった?」「体調はどう?」と声をかけている様子が見られます。自然にそのようなあたたかく、優しい言葉がけができるのは、ご家庭・学園での声かけや見守りのおかげだと思っています。学校でも、今回の学習をはじめ継続して指導していきますが、子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご家庭・学園でも話題にいただけるとありがたいです。今後ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

